



どうすれば合格できる？

# 中学入試◆必勝の勉強法

少子化の影響を感じさせず、連年激戦が続く中学入試。

「どんな勉強をすれば合格できる？」

「模試の成績が安定しないのですが、直す方法はありませんか？」

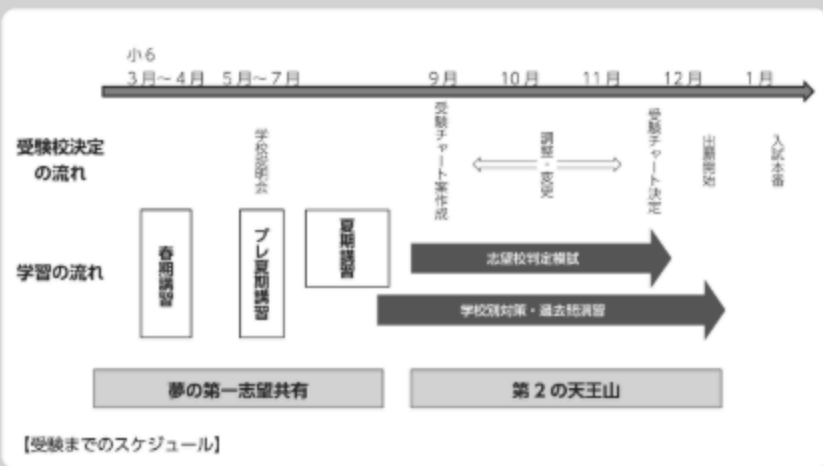
「併願校はどうやって選べいいでしょうか？」など、ご家庭の悩みは尽きません。

ここでは、中学入試に向けての考え方・準備のしかたを解説いたします。

受験科目、受験スケジュール、  
偏差値、併願校、合格後…  
知っておくべき考え方

## 基礎知識

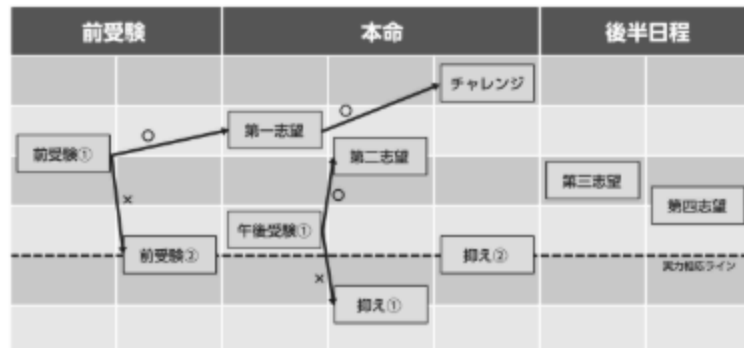
## 受験までのスケジュール



はじめに、入試までの1年間のスケジュールから確認しましょう。

中学入試は、輝田子女や山陽地方の入学試験が11月～12月に始まりですが、概ね1月中旬～2月初旬にかけて山場を迎えます。

入試本番の1ヶ月前～数週間前に入願開始となりますから、遅くともその1ヶ月前の11月末までには受験校を確定させ出願の準備を行います。この場合の確定とは、前受験と、その合否結果による校分かれも想定した、いわゆる〈受験チャート〉の決定を指します。



【受験チャートのイメージ】

その〈受験チャート〉の作成に大きな影響を与えるのが《秋の模擬試験》と《過去問演習》です。この期間を【第2の天王山】と位置付けることができます。

【第1の天王山】とは、もちろん《夏期講習》のことです。

まずは【第1の天王山《夏期講習》】を成功に導くための学習から計画を立てていくことにしましょう。

### ①【学習効率を上げてから夏期講習に取り込む(プレ夏期講習)】 ＝【夏期講習の準備】

夏期講習は、「総まとめ学習」という位置づけで捉えることが一般的です。

この期間において、他に《全科目・全分野の網羅型学習》を行うことがとても難しいため、そのようなカリキュラムを立てるのです。

たしかに夏期講習では「総まとめ」を行うことが理想です。しかし、現実では4教科の「日々の宿題や予習」、「確認テストとその直し」など想像以上にやる事が多く、目先の課題の処理

に追われてしまいます。その結果、学習本来の目的である「定着」や「弱点克服」という点が軽視され、多くの受験生とご家庭が「学習の形骸化」に苦しみます。

【学習の形骸化】は、すなわち「夏休み、あんなに頑張ったのに成績が上がらない」という結果につながりかねません。

これを防ぐために、夏期講習期間、「単元学習の総まとめ」≠「苦手単元の克服」ということを意識して学習を進めましょう。「総まとめ」「総復習」というカリキュラムの進捗にばかり気を取られないように、最も肝心の「弱点の克服」に十分な時間を割くことが重要です。

とはいえ、夏期講習期間中に取り組みなければならぬ学習量を減らすことはできません。

そこで、「消化不良を起こさないための学習の準備」が必要になります。

夏期講習期間中に弱点克服のための学習時間を確保するには、**日々の家庭学習の処理速度を上げておかなければなりません**。そのために「**プレ夏期講習(5・6月)**」で「知識単元の復習」や「国語の読解」など、その後の**学習効率を上げる学習に取り組み**ことで、夏期講習を大成功に導くことができます。



